

研究だより

寒河江市立三泉小学校
令和8年5月20日（水）

NO.2

AARサイクルの視点での授業づくりについて

難波駿『学びのコントローラー』（株式会社 東洋館出版社）を読むと、札幌市の取り組みを取り上げながら、AARサイクルの視点での授業づくりについて記されていました。今回は、その内容をご紹介します。先生方の、授業づくりの参考にいただければと思います。

○ 小学校学習指導要領での振り返りの扱い

『小学校学習指導要領解説 総則編』では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を進める際の配慮事項として、「単元や題材などの内容や時間のまとまりの中で、学習を見通し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるかを考え、実現を図っていくものであること」（下線は筆者加筆）と述べられています。

つまり、主体的に学習に取り組めるよう、子どもたちが学習の見通しを立てたり、振り返ったりする場面をどこに設定するかということ、子どもたちが考え学んでいくか場をどのように設定するかということが重要視されています。

○札幌市が描くビジョン～AARサイクルを学習者が回す未来～

難波駿氏は、以下のように述べています。

札幌市が示す「学びの姿」は、子どもが自ら疑問や課題をもち、主体的に解決していくプロセスを通した学びを基盤としています。令和6年度からは、学びの流れを4つの段階に整理し、子どもの主体性を尊重した多様な学びの実現を目指しています。¹⁾

札幌市が示す、学びの流れの4つの段階は以下の通りです。

【イントロダクション】…子どもが課題を自分ごととして捉える

☆教師から子どもへ「学びのコントローラー」の受け渡しが行われ、子どもは自ら学びの主導権をもつ姿を明確にイメージし、期待を抱く。

【個別探求】…子どもそれぞれが自らの学びを進める

☆自己選択・自己決定のもとに進める個別の学び

【協働探求】…子どもが対話によって思考を再構築する

☆対話を通じて思考を再構築する協働の学び

【リフレクション】…子どもが自らの学びや成長を振り返る

☆学びを深め、次の学習へとつなげていく

更に、難波駿氏は、以下のように述べています。

これらの【イントロダクション】【個別探求】【協働探求】【リフレクション】という学びのプロセスはOECDが示す「AARサイクル」の視点からも整理されています。

AAR（見通し・行動・振り返り）とは、学習者自身が学びの経験を振り返りながら、次の行動へとつなげるサイクルのことであり、学びの資質を高める授業づくりの根幹をなす考え方です。²⁾
（下線は筆者加筆）

札幌市でも、AAR サイクルの視点での授業づくりを目指しており、本校の学校研究とも重なる
ところがあります。学べるところは学んでいきたいです。

○「見通しをもててしまう授業」をつくりには

補足として、難波駿氏は、以下のように述べています。

「見通しをもててしまう授業」をつくるには、教師のしかけや単元構成だけでなく、子どもたちが自分の意思で動き出せる「学習環境のデザイン」が欠かせません。そのため左頁（このおたよりでは下）の写真のような、子どもたち自信が学びを加速させる環境づくりを、年間を通して意識しています（図9や図10参照）。（中略）

見通しをもてる単元を支えるのは、子どもが「何を使って学ぶか」「何を心がけるか」を自分で選び、学びを動かしていける環境の存在だと考えます。(下線部は筆者加筆)³⁾



図9 話し合い・交流を支えるグッズ（自分たちで、勝手に使ってよい）

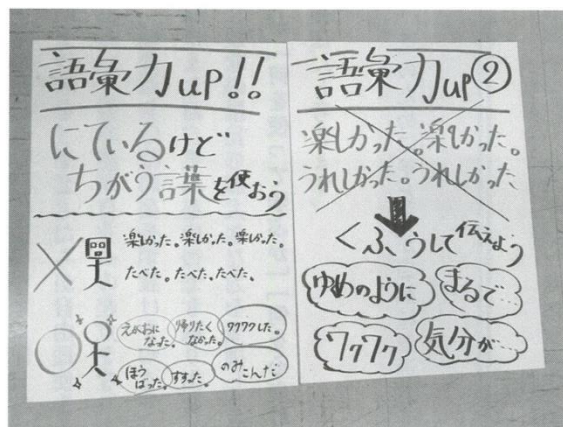


図 10 語彙力を高めると、あなたの言葉がより伝わり、受け取ってもらえると、日々伝えています

難波駿氏は、学びの場づくりが、見通しをもてる単元を支えていると言います。本校の学校研究における、【視点1】単元づくりと【視点2】学びの場づくりのつながりを意識できるといいのかもしれません。

1) 難波駿. 学びのコントローラー. 株式会社 東洋館出版社, 2026, p.139

2) 難波駿. 学びのコントローラー. 株式会社 東洋館出版社, 2026, p.140

3) 難波駿. 学びのコントローラー. 株式会社 東洋館出版社, 2026, p.150